

山 な み

特別号

全国学力・学習状況調査の結果分析、及び今後に向けて

6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査(4月実施)」の結果を本校で分析しました。

この調査は、『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること』を目的としています。

この調査でわかるのは、子どもの学力の全てではありませんが、本校では、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、次の通り分析、教育指導の充実・学習状況の改善に努めてまいります。

◆本校での分析・児童質問紙・全体の傾向

国語、算数のともに全国平均正答率を下回りました。国語は、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることや、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約すること等が成果として表れました。反面、原因や結果等の情報との関係について理解する点や配当されている漢字を文の中で使うこと等が課題となっています。算数では、折れ線グラフを用いて表したり変化の特徴を読み取ったりすることや基本図形の面積の求め方やその公式を導くことができる等が成果として表れました。しかし、比例や単位量あたりの数量を求めることや簡単な図形の性質について、未定着の割合が高い結果となりました。全体的に問題に対する無回答の割合がかなり減少し、問題に対して諦めずに取り組んだ様子が見られました。

児童質問紙からは、国語や算数の必要性を感じている子が多くいるのにもかかわらず、好きになれない子が多いことが課題となっています。いじめはどんなことがあっても悪いことだという意識をもっている子が100%であることや、学校の授業以外で1時間以上学習をしている子が増加している傾向が見られました。大変素晴らしい傾向にあることがわかりました。

◆「国語」について

- 資料に書かれている内容から中心となる語や文を見付け、適切な言葉に言い換えている解答を選択することができていました。
- △問題の資料にある、語句を枠で囲んだり、線で他の語句と結んだりした図から語句と語句の関係を見付けるのが苦手だということがわかりました。しかし、重要な語句が何かは判断することはできています。
- △漢字の問題で「意外」と書くべきところを「以外」と書いていたため、文脈や意味からどちらを使うべきか捉えることが苦手だとわかりました。

◆「算数」について

- 高さが等しくなる三角形では、底辺の長さの違いによって面積が変化することを理解しています。
- 二次元の表から条件に合う数を読み取ることができています。
- △比例の関係にあることを用いて、もとの数量の何倍かを求めたり、単位量あたりの数量を求めたりすることについて、記述する内容が不十分であり、表現が苦手ということがわかりました。
- △わり算の筆算は反復により正確な答えは出すことができますが、機械的に行っているため一つ一つの行程がどのような計算になるか理解不足ということがわかりました。

1 授業改善に努めます

- 「課題→見通し→個人思考→練り合い→まとめ→習熟」を基本型とした授業を展開します。
- 振り返りを充実させ、習熟問題に取り組むなど、学習内容の定着につなげていきます。
- 習熟度別少人数指導やT・T(チームティーチング)を充実させ、個に応じた指導を図ります。また、自由進度学習等にも取り組み、子どもたち一人一人に合った学習を展開します。
- 根拠をもとに、自分の考えをまとめる力の育成に向け、授業改善を図ります。
- ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びとなるように意図的に学習活動を展開し、分かる授業づくりを一層進めます。

2 家庭学習の継続、質の向上に努めます

- 与えられる学習から自ら考える学習、主体的に学ぶ学習を通して、学習習慣の定着に粘り強く取り組みます。
- 「自主学習ノート」の掲示や学級通信などを活用し、家庭学習の質や意欲の向上に努めます。
- 「生活リズムチェックシート」の継続により、望ましい学習(読書)・生活習慣(メディア利用)の定着を図ります。

3 サポート学習を継続します

- 「マナビーランド」等を活用し、学び直しの充実や基礎基本の徹底を図ります。
- 「放課後学習サポート」を継続し、不得意な分野の克服や基礎・基本の定着に取り組みます。